



# 令和3（2021）年度 第12期 とちぎの教育未来塾

第1日〔令和3（2021）年10月9日（土）〕

第12期生 134名



## 開講式

◆開講あいさつ 総合教育センター所長 大島 政春

「語り合い 学び合い 高め合う」をキャッチフレーズとし、第12期「とちぎの教育未来塾」がスタートしました。今年度の「とちぎの教育未来塾」は、全5日間の日程で開催されます。第1日は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、感染拡大防止に万全を期すため、オンライン（Zoom）により実施しました。開講あいさつでは、未来塾の目的・特徴や研修に臨む心構えについて話がありました。



## 特別講話

★「とちぎの教育未来塾—教師としての“これから”の歩みかた—」

元栃木県教育委員会教育長 須藤 稔 先生

「とちぎの教育未来塾」は、須藤先生が栃木県教育委員会教育長をお務めになられていた平成22年に始まりました。当時を振り返られながら、未来塾創設の思い、教師としてのあり方や教育の基本についてお話をいただきました。



## 受講後の振り返りから

### 【現職】

◆大学在学中に須藤先生から、教師としての歩み方をたくさん教えていただきました。今回の講話で、もう一度須藤先生の考え方に触れ、教師としてのあり方を再確認することができました。いつまでも「謙虚」に、「自分はいかなるものか」を考えながら、子供たちのために働いていきたいと思いました。

- ◆子どもは先生を選べない、子どもにとって、教師との出会いはその後の人生に関わる重大なことという言葉がとても心に残りました。このことを考えて指導することを忘れてしまっていないかあらためて考えさせられました。生徒にとっては講師も一人の先生だということを忘れずに、責任をもって一つ一つの授業や指導をしていきたいと感じました。

### 【学生等】

- ◆ご講話をうかがい、教師は学び続けなければならないという使命感を覚えました。先生のご講話の中で、孔子の「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」という言葉を紹介していただきましたが、今の自分にぴったりの言葉でした。教員を目指すものとして、常に学び続け、自分の軸となる部分を見失わずにいたいと思いました。
- ◆教師は学び続ける「学びの専門家」であること、子どもたちの人格の完成に携わる責任ある仕事であることが理解できました。子どもの将来や生き方を形づくる土台形成の時期に携わる者として、一人ひとりの子どもを「輝」かせることのできる教師でありたいと思いました。

## 講話・演習

### ★「教師を語ろう」

栃木県総合教育センター研修部副主幹 庄司 由夏

それぞれの「こんな教師でありたい！」姿を受講者同士で共有しながら、とちぎの教師として「求められる教師像」について考えました。また、目指す教師の姿に向けて、今日からがんばることを考え、班（ブレイクアウトルーム）の中で宣言しました。



## 受講後の振り返りから

### 【現職】

- ◆日々の業務に追われ、時間をかけて教師という仕事について考えることがなかったので、改めて思い描いていた教師になるにはどうしたらいいかを意識して生活をしていこうと思いました。「今日からこれをがんばります！」を実践して、未来塾の最終日までには、不足している部分を少しでも補えるようにしていきたいと思います。学生の方と話す機会はなかなかなく、緊張しましたが参加して良かったと感じました。
- ◆教員を目指している学生の皆さんの、期待に満ちた意見をうかがい、先に教壇に立つ身として恥ずかしくない先生でありたいと思いました。

### 【学生等】

- ◆志高く教師をされている先生方、他の学生の皆さんのお話を聞いて、様々な視点で自分自身を見つめ直すことができました。教師としてなにが必要なのかを考え、学び続けていきたいと思いました。
- ◆普段、関わりがない他大学の学生さんや現職で働いていらっしゃる先生の意見や考えを聞くことができ、貴重な経験になりました。こんな教師になりたいという理想は描いていましたが、他の方々の意見や考えを聞き、「この力も必要だ」と気づかされることがたくさんありました。